



たいじゅ もり
大樹の森

7月号

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fudomaru/>



実体験から学ぶ子どもたちに

校長 山下 謙一郎

先日、子どもたちが取り組んでいた「自主学習」ノートを見させてもらう機会がありました。「自主学習」とは、学年の中で取り組んでいる宿題のひとつで、自分でテーマを決めてそれについて調べたり、考えたりしてノート2ページ分にまとめるというものです。内容も様々で、自分が興味をもったことを調べるからでしょうか、ノートのまとめ方も実に個性あふれるものも多く、子どもたちの発想やアイデアに感心していました。

その中で、一人の女の子の「自主学習」ノートに、私は大変驚かされました。そこには環境について自分が思ったことや考えたことを、イラストを加えたり、写真を載せたりしており、非常に工夫されたすばらしいノートになっていました。この女の子は、ごみ問題の中でプラスチックに注目して、プラスチックがどのくらい家庭から資源ごみとして出されるのか、環境にどのような影響を及ぼすのかなど、実にくわしく調べていました。また、インターネットで調べるだけでなく、自分の身の回りの状況や実際に家族で川に行つて、ごみ拾いをしてみた結果をまとめて考察してみるといった実体験をもとにした学びが見られ、大変感動させられました。

インターネットが普及して何年たったでしょうか。今はパソコンだけでなく、スマホやタブレットを使って、素早く簡単に情報が手に入る時代になりました。そして、一昔前までは大人の社会での話だったことが、子どもたちも同じ社会に加わるようになりました。また、ネット文化の中で疑似体験を行うことで、まるで実際に体験したかのような満足感を味わうこともできるようになりました。これは決して間違いではなく、使い方によってとてもよい学びを展開することができます。

一方で、不動丸小学校では、実体験をもとにした学びも今一度大切にしていこうと、昨年度から生活科・総合的な学習の時間に力を入れて取り組むようにしています。それは、実体験でしか得られない感情を揺さぶられる学びがあるからだとは私と考えます。今子どもたちに必要な学びとは何かを常に考えながら、これからも教育活動を進めてまいります。